

※※※収 蔵 品 紹 介※※※

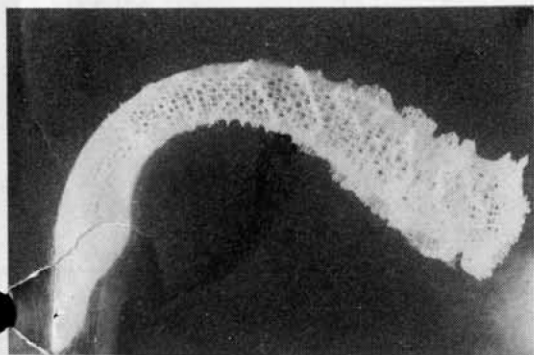
科学文化センターでは館内の展示や催し物を開いたりするばかりでなく、富山県や日本、さらには外国の自然科学に関する資料を集めています。そのいくつかを紹介しましょう。

○カイロウドウケツ

このカイメンは南日本からフィリピンの沖合の100～200mの海底にすんでいます。

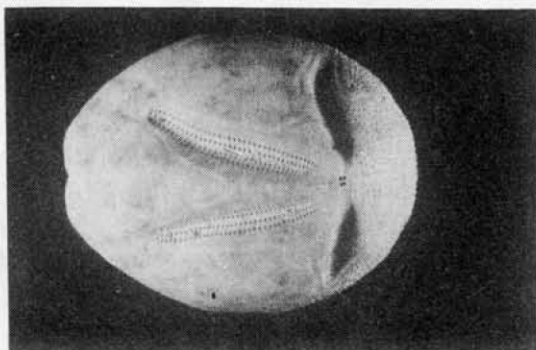
カイロウドウケツ（偕老同穴）の名は、このカイメンの中にオス・メス1対のドウケツエビと呼ばれるエビがすんで、一生夫婦としてすごします。そのため、夫婦が末永く仲良く暮らしてほしいという意味で、結婚式のお祝いの品として使われています。

もっとも、3匹めのエビがいたとか、別の種類の動物が混っていたとかというニュースもあり、ドウケツエビの世界も必ずしも夫婦円満とはいかないようです。

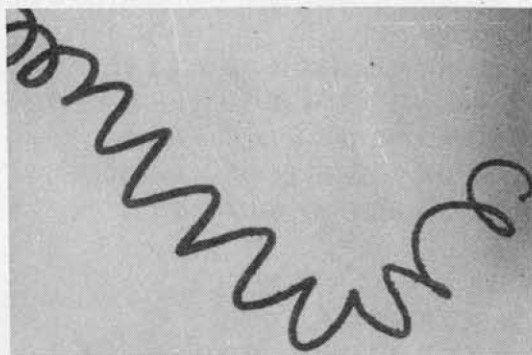


○ブンブクチャガマ

海の中には、姿の変わった動物がたくさんすんでいます。名前もかわっているものもあります。浅い海の底にすむ“ブンブク”のなかまや“タコノマクラ”、“カシパン”のなかまなどもその代表的な例でしょう。これらはいずれもウニのなかまです。ムラサキウニやバフンウニなど“普通の”ウニとはかなり違った形をもっています。ブンブクのなかまは“不正形類”とよばれ、体の下の方にある口が退化して、肛門が後方へ移動しているのが特徴です。これらの卓抜な名前は、明治のはじめ東京大学三崎臨海実験所の採集人をしてもらった青木熊吉（通称熊さん）の命名であるといわれています。



○これも生き物？



海の生き物の中には動物なのか植物なのか、わかりにくいものがたくさんすんでいます。写真の生き物は生物なのか無生物なのか、判断に迷いますね。実は、これはネジレカラムツという名のれっきとした動物で、腔腸動物こうちやうどうぶつの中の六放サンゴのなかま、すなわち、イソギンチャクのなかまです。イソギンチャク状の体がたくさん集まって、針金状の群体（ぐんたい）を作っているのです。ネジレカラムツは太平洋の相模湾以南の500mまでの海底にすんでいます。（布村）

表紙によせて

トンネル内の氷筍 ひょうじゆん 一黒部にて

つららのよくできるような所では、条件によって落ちた水滴が地面で凍結し、上方に向って筍状たけのこに氷が成長することがあります。寒冷地のトンネル出入口付近で天井から地下水のしたたるところでは、このように大きくて透明な奇形の氷が見られます。（川田邦夫氏提供）